

# 感染リスクの高い「学校連携観戦」は賛同できません

## 子どもたちのいのちと安全を守るために、再び中止の申し入れ

都教組杉並支部は、去る5月にもオリンピック・パラリンピックの学校連携観戦の中止を求める要請を行ってきました。今、4度目の緊急事態宣言中であり、爆発的な感染が広がり病院にも入れないという事態が生じている中、「オリンピックでは中止したのに、何故、パラリンピックは別なの?」「都教育委員会でも反対が多数なのにどうして?」という声が寄せられています。杉並支部は、下記のように中止を求める緊急の申し入れをしましたのでお知らせします。

2021年8月20日

杉並区教育委員会  
教育長 白石 高士 様

東京都教職員組合杉並支部  
委員長代理 松永 晃

### 子どもたちのいのちと安全を守るため パラリンピック「学校連携観戦」の中止を求める緊急の申し入れ

日頃より、杉並区の教育へのご尽力に敬意を表します。  
パラリンピック「学校連携観戦プログラム」について、強く中止を申し入れます。

緊急事態宣言が発出されておりますが、現在の状況はこれまでの宣言下とは違い、過去最悪であり、都知事は「災害レベル」「人流抑制」、モニタリング会議では「制御不能な状況」「医療機関は機能不全」と発言しています。この最悪な状況の出口は見えず、悪化の一途をたどっていることは周知の事実です。

自宅療養者も増え続けているこの状況下、親子3人で感染し自宅療養中に母親が亡くなってしまうという非常に悲しい事案もありました。家庭内感染の構図は「大人から子どもへの感染」が多かったのですが、変異株では「子ども同士の感染」「子どもから大人への感染」も増えており、子ども同士の活動にはこれまで以上に注意が必要になります。すでに2学期の開始を遅らせたり、休校を視野に入れたりしている自治体や学校法人もあります。ガイドラインの見直しの必要性も感じます。

また、18日に行われた東京都教育委員会臨時会においては出席委員全員が、感染状況悪化を懸念し「反対」を唱えました。この判断は、教育組織として非常に重いものであります。

さらに、政府分科会の尾身会長も国会での答弁で慎重な姿勢を示しています。各種メディアにおいても無観客開催であるのに学校連携観戦は実施することへの、矛盾や懸念の声や記事がほとんどです。

このように感染リスクが高く、懸念の声が多い状況の中で「学校連携観戦」を実施（強行）することは、教育的意義があるとはいえ賛同できるものではありません。子どもやその家族、教職員の命と安全を守るため、強く反対し中止を求めます。

また、実施が強行された場合、引率は2学期を目前に控えた教員に、感染リスクを負わせながら任せることがないように、合わせて強く要望します。（学校行事ではなく、観戦予定日は土日でもあります。）

直接観戦ではなく、テレビやオンライン等での間接的な観戦であっても十分に教育効果は上がると考えられます。コロナ禍の状況下で、急速に発達したオンライン技術を有効活用することで、プロスポーツ界で行われているような会場の選手との交流もできるのではないかと考えます。パラリンピックに携わっている企業やスタッフであれば容易に実現できるものと思われれます。ぜひ東京都や組織委員会に働きかけてくださるようお願いいたします。

今すべきは、観戦に必要な多額の輸送費等を支出するのではなく、コロナで苦しむ多くの方々に手を差し伸べる歳費とすべきではないでしょうか。